



目黒区長 青木英二

区長あいさつ

目黒区は、令和3(2021)年に策定した基本構想において、「さくら咲き 心地よいまち ずっと めぐる」という、およそ20年後のまちの将来像を定めました。基本構想の中では、構想実現のための区政の運営方針の一つとして、「未来を見据えた持続可能な行財政運営」を掲げています。

さらに、令和4(2022)年に策定した基本計画の中では、この「未来を見据えた持続可能な行財政運営」を進めていくために、「データ利活用の推進」を掲げています。

今回、発行に至った令和3年度版「区勢要覧」は、まさにさまざまな区のデータ・情報が凝縮されたものとなっています。この「区勢要覧」が、目黒区の「今」を知り、「未来」を考えるための皆さまの一助となることを、心より願っております。

目黒区基本構想(令和3年)

基本構想とは、目黒区のまちづくりの基本的な理念や将来像と、それに向けての長期的な目標や政策の方向を示すものです。行政計画の最上位の計画であるとともに、区と区民が共有し、地域社会全体で実現すべき目標ともいえるものです。

基本構想では、区が目指すまちの将来像を「さくら咲き 心地よいまち ずっと めぐる」と定めています。目黒区は、将来にわたり社会や環境が目まぐるしく変化する中であっても、地域で暮らす人や働く人、学ぶ人はもちろん、訪れる人も、誰にとっても、いつでも、いつまでも「心地よい」と感じることができるまちを目指します。

構想実現のための三つの区政運営方針と五つの基本目標

<三つの区政の運営方針>

- ① 平和と人権・多様性の尊重
- ② 区民と区が共に力を出し合い連携・協力する区政の推進
- ③ 未来を見据えた持続可能な行財政運営

<五つの基本目標>

- ① 学び合い成長し合えるまち
- ② 人が集い活力あふれるまち
- ③ 健康で自分らしく暮らせるまち
- ④ 快適で暮らしやすい持続可能なまち
- ⑤ 安全で安心して暮らせるまち



こちらからご覧いただけます
(目黒区ホームページ)



目黒区のシンボル

昭和52年10月1日制定

区の木 しい

ブナ科の常緑樹で、目黒区の公園樹や庭木の中で最も多い樹木です。花は初夏、実は翌年の秋に実ります。

風雪に耐え、大地に強く根を張ったしいは、郷土の自然と、村づくり、まちづくりに励んできた私たちの祖先の勇気を、じっと見詰めてきたのです。

しいは、将来の実りを約束し、明るく住みよいまちづくりに向けて、力強く、根強く前進する、私たちの目黒区を象徴する木です。



区の花 はぎ

マメ科の植物で、秋の七草の一つ。種類も多く、日当たりの良い所に生える小低木で、かつては目黒の鷹狩りの場であった駒場野や畑のあぜなどに見られました。

蝶形の紅紫色や白色の小さな花が群がって咲き、和歌にも歌われ俳句の季語にもなっている、極めて美しい花です。

また、古くから目黒の人びとも親しまれ、野仏にも供えられたであろう花でもあります。

古い株から新しい芽を出すこの花は、明るい未来を築く、私たちの目黒区を象徴する花です。



区の鳥 しじゅうから

シジウカラ科の鳥で、黒い頭とのだ、白いほお、緑黄の背、胸から腹の中央に黒い筋が目立つ、スズメより小さな益鳥です。人懐こく、枝から枝に飛び回って害虫を退治します。晩秋から冬になると、小群で「ツピー、ツピー」と鳴きながら、えさを求めて庭木から庭木に飛んできます。巣箱にもよく訪れ、えさ台のヒマワリの種やピーナツなどをついばんでいきます。

小群を成して飛ぶこの鳥は、人と人とのふれあいを大切にし、心の通い合うまちづくりを進める、私たちの目黒区を象徴する鳥です。

目黒区90年の歩み



昭和11年設立時の区役所庁舎(出典:目黒区のあゆみ)

1932年 目黒町と碑衾町が合併し目黒区誕生

東京府荏原郡目黒町と同碑衾町が合併して東京市に編入され、目黒区が誕生したのは昭和7年10月1日のことです。目黒区の面積は、14.67平方キロメートルで23区全体の2.4パーセントに当たり23区中16番目の広さです。



(出典:目黒区のあゆみ)

1934年 目黒区広報(「公報」)発刊



1982年 区政施行50周年記念式典を区公会堂で開催



2000年 「目黒のさんま祭」開催

目黒区民まつりのメインイベントのひとつに、「目黒のさんま祭」があり、友好都市である宮城県気仙沼市から送られた新鮮なさんまを炭火焼きで提供しており、多くの来場者でにぎわっています。ほかにも、「ふるさと物産展」や、さんま祭の由来となっている落語「目黒のさんま」を落語家さんにご披露いただいたりなど、様々なイベントが開催されています。



2003年 目黒区役所が中目黒の総合庁舎へ移転

目黒区総合庁舎は、かつて千代田生命保険相互会社の本社ビルでした。この建物は、日本の高度成長期における建築家村野藤吾氏の代表作の一つとして知られています。もともとこの地にはアメリカンスクールがありました。その前には牧場があったといえます。この広い敷地に建物をどう構成するか、村野氏は多くのスケッチと粘土模型でデザインを練り上げました。中央の石畳の広場は駐車場に、緑の庭の一部は車道を通すため切り取られましたが、建物の内外に建築家・職人・美術家による協働の結晶が見られ、かつてのたたずまいを今も思い描くことができます。



2008年 宮城県角田市と友好都市協定を締結

目黒区の国内最初の友好都市です。角田市の関わりは、なんと遠く室町時代にまでさかのぼります。今の目黒区周辺を治めていた武士の目黒氏一族が、現在の宮城県角田市に移り住んだのが、その始まりと伝えられています。現在は、小学生が両都市を訪問し合うホームステイや農村体験、災害時の職員派遣、区民まつりなどでの特産品の出店などで交流を深めています。



2017年 石川県金沢市と友好都市協定を締結

旧加賀藩主前田家第16代当主利為侯爵(1885年から1942年)が、昭和4年に駒場に建設した「旧前田家本邸」があることによる縁で交流が始まりました。締結式は、金沢市内の大樋美術館において、前田家と縁のある裏千家の「お茶」をテーマに、婚姻に利用される「茶婚式」を模したしつらえにより行われました。「濃茶」による契りの儀式や、協定締結記念に制作された茶碗への名入れを行いました。



2010年 宮城県気仙沼市と友好都市協定を締結

平成8年の住民同士のイベント交流をきっかけとして、「目黒のさんま祭」におけるさんまの提供や災害時相互援助協定の締結、中学生の自然体験ツアーなどの交流を行ってきました。「目黒のさんま祭」が15回目を迎えた記念の年に、両自治体はさらに絆を深め、今後は防災、地域振興、産業経済、教育文化など幅広い分野にわたり末永く協力し合い、共に発展していくことを確認しました。

1930 1940 1950 1960 1970 1980 1990 2000 2010 2020

- 1932年 目黒町と碑衾町が合併し目黒区誕生
- 1934年 目黒区広報(「公報」)発刊
- 1936年 目黒区役所庁舎(旧館)完成
- 1945年 太平洋戦争により目黒区にも空襲被害
- 1947年 新制中学校設置
- 1952年 守屋図書館開館
- 1956年 目黒公会堂開設
- 1961年 目黒区役所(新館)落成
- 1964年 新住居表示制に着手
- 1967年 目黒区役所本館落成
- 1968年 目黒区体育館(現中央体育館)開館
- 1974年 生活圏域(住区・地区)を設定
目黒区民センター開設
- 1977年 名誉区民制度制定
区民憲章と目黒区のシンボルが決定
第1回目黒区民まつり開催
- 1980年 目黒区の歌「めぐる・みんなの歌」決定
- 1982年 区政施行50周年記念式典を区公会堂で開催
- 1985年 住区サービスマニエール開始
- 1987年 目黒区美術館開館
- 1990年 目黒区緑化都市宣言
- 1991年 北京市崇文区と「友好協力関係推進のための協力書」に調印
- 1992年 中目黒スクエア開設
- 1993年 23区初の目黒区リサイクル推進都市宣言
- 1994年 23区初の目黒区福祉都市宣言
- 2000年 目黒区健康都市宣言
「目黒のさんま祭」開催
- 2001年 目黒区役所、ISO14001認証取得
- 2002年 めぐる区民キャンパス開設
- 2003年 目黒区役所が中目黒の総合庁舎へ移転
- 2008年 宮城県角田市と友好都市協定を締結
めぐる歴史資料館開館
- 2010年 崇文区が東城区と合併し友好協力関係を継続
宮城県気仙沼市と友好都市協定を締結
- 2017年 石川県金沢市と友好都市協定を締結
- 2019年 大韓民国ソウル特別市中浪区と友好都市協定を締結
- 2022年 目黒区90周年

